地域と中小企業の事情や特性に精通した機関がコーディネーターを務め、地域の中小企業の人材確保・育成を支援するプログラムが満載！

平成18年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業

❶	苫小牧商工会議所	北海道（苫小牧市）
❷	(財)函館地域産業振興財団	北海道（函館市）
❸	(株)八戸インテリジェントプラザ	青森県（八戸市）
❹	(財)岩手県南技術研究センター	岩手県（一関市）
❺	(財)みやぎ産業振興機構	宮城県（仙台市）
❻	(財)にいがた産業創造機構	新潟県（新潟市）
❼	沼津商工会議所	静岡県（沼津市）
❽	(財)大田区産業振興協会	東京都（大田区）
❾	(財)群馬産業支援機構	群馬県（前橋市）
❿	(財)長野経済研究所	長野県（長野市）
⓫	豊田商工会議所	愛知県（豊田市）
⓬	(財)岐阜産業経済振興センター	岐阜県（岐阜市）
⓭	(財)石川県産業創出支援機構	石川県（金沢市）
⓮	(財)北陸経済研究所	富山県（富山市）
⓯	鈴鹿商工会議所	三重県（鈴鹿市）
⓰	(財)奈良県中小企業支援センター	奈良県（奈良市）
⓱	(社)ふくい産業支援センター	福井県（福井市）
⓲	御坊商工会議所	和歌山県（御坊市）
⓳	(社)兵庫工業会	兵庫県（神戸市）
⓴	つやま新産業開発推進機構	岡山県（津山市）
㉑	(財)しまね産業振興財団	島根県（松江市）
㉒	有限責任事業組合アクセル	山口県（宇部市）
㉓	(財)とくしま産業振興機構	徳島県（徳島市）
㉔	(株)久留米リサーチパーク	福岡県（久留米市）
㉕	(社)宮島工業クラブ	宮崎県（都城市）
㉖	(財)くまもとテクノ産業財団	熊本県（上益城郡）
㉗	NPO法人 長崎県科学・産業技術推進機構	長崎県（長崎市）
㉘	八代商工会議所	熊本県（八代市）
㉙	(株)鹿児島TLO	鹿児島県（鹿児島市）
㉚	(株)沖縄TLO	沖縄県（中頭郡）

※●が今回取りあげられた5事業です。

平成18年度若者と中小企業とのネットワーク構築事業

①	(株)会津リエゾンオフィス	福島県（会津若松）
❷	(財)デジタルコンテンツ協会	東京都（千代田区）
③	(株)浜名湖国際頭脳センター	静岡県（浜松市）
④	(財)大田区産業振興協会	東京都（大田区）
⑤	(社)首都圏産業活性化協会（TAMA協会）	東京都（八王子市）
⑥	(社)関東ニュービジネス協議会	東京都（港区）
⑦	NPO法人　OCP総合研究所	東京都（八王子市）
❽	(財)上田繊維科学振興会	長野県（上田市）
⑨	三重県商工会議所連合会	三重県（津市）
⑩	NPO法人　NPO愛知ネット	愛知県（安城市）
❶	立命館大学瑞エリサーチオフィス	滋賀県（草津市）
❷	彦根商工会議所	滋賀県（彦根市）
⑬	和歌山県中小企業団体中央会	和歌山県（和歌山市）
⑭	(社)香川経済同友会	香川県（高松市）
⑮	(株)パソナキャリアアセット	大阪府（大阪市）
⑯	(社)中国地域ニュービジネス協議会	広島県（広島市）
❼	(有)アジアビジネスコンサルタント	福島県（福島市）
⑱	(有)オーシャン21	沖縄県（那覇市）

※●が今回取りあげられた5事業です。

中小企業☆人財支援プロジェクト

平成18年度中小企業人材の確保・育成支援のバックアップ事業

お問合せ先

中小企業庁
〒100-8912　東京都千代田区霞が関1丁目3番1号
http://chusyo.meti.go.jp

若者と中小企業のネットワーク構築事業	高専等を活用した中小企業人材育成事業
経営支援部経営支援課	経営支援部技術課
☎03-3501-1763	☎03-3501-1816

若き侍たちをご覧ください。

21世紀を担う若者たちを育てるということは・・・？
中小企業の向かうべき方向が、きっと見えてきます。

中小企業を輝かす、人という財(たから)者。地域の「ピカピカ企業」になるための、2つの人財支援プロジェクト活用術。

「確保」と「育成」、若手人材にまつわる2つのハードルを巧みに乗り越える、経営者のための賢い経営術です。

人材は必要だと感じていても・・・、若手人材の採用は会社の負担だという本音。

出会いが欲しくても、
採用活動にはお金がかかる。

人材を見極めたいけれど
人事に人手も時間も割けない。

育つまで待てない。だから、
経験者の方がありがたい。

自社だけでは専門技術の
継承が困難になってきた・・・。

そんなときにはこのプロジェクト

人材が「人財」に。課題を希望に転換するプロジェクトは、ここがすごい!

出会いと語らいの場をプロデュース。
心意気も情報も相互に交換。

ジョブカフェや教育機関などとの
地域内連携で、ネットワークを創出!

採用前の知識取得、
採用後の技術取得で強力サポート。

技術も設備も有する
教育機関がバックアップ。
高度な講義・実習を実現。

中小企業の魅力を伝えるなら、「ネットワーク構築事業」を。技術者の育成には、「高専等を活用した人材育成事業」を。

採用前
出会いのサポート
採用
人材育成支援
採用後

出会い、語らい、理解を獲得。

若者と中小企業とのネットワーク構築事業

この事業は、若者への情報発信の難しい中小企業と、中小企業の情報に触れる機会が少ない地域の若者の架け橋を創出するプロジェクト。平成18年度は、厳正な審査の結果、全国18の事業（地域）が採択されました。それぞれ、地域の中小企業の特性や実情に通じた機関がコーディネーターを務め、地域のニーズに特化した取り組みをプロデュースしています。例えば、社長のカバン持ちを行ったり、教授体験を開催したり。経営者の理念や企業の技術力を伝えることで、地元の中小企業に目を向けてもらおうという試みが、各地で進行中です。

高度な技術の習得と、意識レベルの向上も。

高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業

豊かな技能を駆使しながら、企業の技術力をけん引するリーダーとして活躍し、さらには明日の日本の産業界を担う若者の育成を応援するプロジェクト。平成18年度は全国で30件が採択され、地域の高等専門学校が保有する設備や知見を活用し、地域の中小企業の若手技術者を育成するプログラムが提供されています。その反応は上々。熱意あふれる教授陣や地域のベテラン技術者の講義と実習を経て、各地で技術者が育っています。

また、育成プログラムへの積極的な参加は、企業の研修充実度を評価する学生にとっても効果的なアピールポイントになることでしょう。

求職者と求人企業のミスマッチを解消

コンテンツ産業のハイブリッドな人材支援

2000年頃からビジネスが多様化をみせているコンテンツ産業。技術も次々と高度化する中、従来のクリエイター型人材に加えて、プロデューサー型人材のニーズが高まっている。しかし、コンテンツ産業を支える多くの優秀な企業は中小企業。人や時間、コストを求人活動に割くことができず、学生との情報接点に乏しいのが現状だ。結果として、優秀な人材が大手の企業に流れてしまっている。

日本の経済界をリードする産業だけに、業界に対する期待は大きい。そこで、(財)デジタルコンテンツ協会、NPOコミュニティー・サポーターズが主体となって中小企業の魅力を発信し、クリエイター型人材とプロデューサー型人材を確保する取り組みが始まった。

「効く!」ポイント1

情報はここに集約!
企業と教育機関のコミュニティ「学校連絡会」を構築

学生とコンテンツ企業のマッチングの場に潜む課題は、企業側だけではなく学生を抱える教育機関側にも残されている。そのひとつが、専門学校や大学がコンテンツ制作のみを教えているのではなく、複数の学科をもっていることだ。職員が企業を回り、求人を募る方法が主体のため、いくつもの業界を回るとどうしても数に限界がでてくる。

そこで、企業・教育機関双方が情報を発信でき、その中から自分の必要な情報を取り出せるコミュニティが形成された。それが「学校連絡会」。教育機関側は首都圏のアニメやゲームを教える専門学校や大学約100校、そして企業側にはアニメ・CM・CG・ゲーム・Webなどの制作会社へ参加を呼びかけている。

これにより、企業側はコストをほとんどかけずに求人を募ることができ、教育機関側の労力も軽減される。

「効く!」ポイント2

クリエイター型人材のOne to Oneマッチング支援
クリエイティブな仕事の博覧会「クリ博」開催

学校連絡会とあわせ、人材マッチングを促進するための取り組みとして平成19年2月28日(水)に青山TEPIAで開催されるのが、クリエイティブな仕事の博覧会「クリ博」だ。(財)デジタルコンテンツ協会が仕掛け人となって、アニメやゲームの制作会社50社を一堂に集めた。クリエイター型人材を発掘するための適職フェアとしては業界初の試みだ。

このクリ博、学校連絡会を介して告知されるので、先生や職員から説明を受けた意識の高い学生が集まってくるのが見逃せない。

夢だけでは終われないビジネスの場だからこそ、厳しい側面もあるコンテンツ産業に対する想いを共有しなければ、優秀な人材は離れてしまう。クリ博では、就職試験とは違った1対1の会話の中から、中小企業の魅力を発信していくのが狙いだ。同時に、出展コストを抑えることで採用に消極的だった企業の門戸を広げていきたい考えだ。

業界で活躍する若手が増えれば、それがまた新たな人材確保の呼び水になる。ビジネスの拡大のためにも、制度と意識の改革は欠かせない。

11月18日(土)クリ博のガイダンスが行われ、320名の学生が熱心に講演に耳を傾けた。

「効く!」ポイント3

2人の学生が内定決定!
プロデューサー型人材を育てる、インターンシップ

コンテンツ制作を学ぶ専門学校とのルートはあっても、プロデューサー型人材を輩出する経営学部や経済学部のある四年制大学との接点がないという中小企業のために始められたのが、プロデューサー型人材育成のための「ハイブリッドインターンシップ」だ。ハイブリッドとは"複合的"なプログラムということ。入門ギャザリング・課題解決型インターンシップ・課題解決ワークショップ・ネットワーキングセミナーの4つで構成されている。今回のコーディネーターの宮徹氏がスキームを開発し、東京工科大学の三上浩司氏がカリキュラムを策定した。

アニメ業界に関心のある若者が集まるインターネット上のコミュニティで参加を募り、最終的には首都圏の四年制大学の学生を中心に、大学院生や関西から14名の参加者が集まった。彼らは3日〜1週間の期間で企業に出向き、若者が考える将来のプロデューサー像について報告。コンテンツビジネスへの理解を深めた。

平成19年度は定期的な人材育成セミナーも開催し、さらに裾野を広げたい考えだ。

参加者Voice

コンテンツのアーカイブ管理をする倉庫の中で
過去の作品の活かし方、ブランド化について考えにふけりました

株式会社プロダクション・アイジーのインターンシップに参加した

北京大学哲学部哲学科卒業　**崔 蓓蓓** さん

企画室広報でアーカイブ管理を手伝った崔さんは、これを機会に内定が決まったうちのひとり。「制作のはじめから終わりまでの資料が揃うアーカイブでの仕事や、ワークショップを通じて、プロデューサーの仕事が少しずつ見えてきました。でも、現場でいろんなことを経験し、また違った視点で見てみると、別のことが見えてくると思います。そういう意味でここがスタート地点。理想だけで終わらないよう、日々頑張って行動を起こしていきたい」と抱負を語ってくれた。

この事業に関する問い・お問い合わせ先
財団法人　デジタルコンテンツ協会
〒102-0082　東京都千代田区一番町23番地3　日本生命一番町ビルLB
TEL.03-3512-3901　FAX.03-3512-3908　URL http://www.dcaj.org/

産学官連携のノウハウを若者ネットワークづくりに活かす

学生キーマンを大胆起用! AREC、若者にじわり浸透中!!

新製品や新事業の開発を多く手がけ、数々の受賞実績を誇る、地方の産学官連携組織の雄「上田市産学官連携支援施設 AREC（エーレック）」。2000年の設立当初からその軽いフットワークを活かし、強力な企業ネットワークを構築してきた。その結果、いまでは産学連携のみならず、産産連携を新たなビジネススキームとして提供する存在となっている。そんなARECに聞こえ始めたのが「数年後の企業を担う若手人材の不足」という新たな課題だ。そこで、産学連携で培ったネットワークとノウハウを応用し、若者の関心を上田の中小企業に向けるための新たな挑戦が始まった。

「効く!」ポイント1

人事担当者の情報交換に新たな場を創出 北信・南信、そして首都圏に若者の拠点を構築中

ARECはもともと、175社の会員企業を抱える産学官連携施設だ。企業の技術部門とは、既に強力な信頼関係が築かれている。そこで、今度は人材獲得に関して情報交換していこうと、新たな展開を画策している。それが人事・総務担当者の組織化だ。

ARECでは既に、南信の伊那商工会議所に分室が置かれ、ハローワーク長野と共同で就職相談会が開催されるなど、人材支援プログラムの強化策が進行中だ。さらに、地元への就職意識の高い長野工業高等専門学校の学生に働きかけ、企業見学会や企業講演会も実現した。しかも、首都圏の大学に通う、長野出身の学生にUターンを狙ったヒアリング調査も実施。着実に学生との輪が広がっている。

ここに、企業の人事・総務部門との情報ネットワークが形成されれば、企業のニーズと、学生のウォンツをマッチングさせることができる。ARECを軸に、学生・企業が集まる情報拠点が出現するというわけだ。

Uターンに関するヒアリングは思った以上に反応がよく、首都圏の大学生を集めた就職相談会や、地域企業との交流会も検討中。今後ますます充実するこれらの取り組みに、企業ネットワークは欠かせない。

「効く!」ポイント2

学生が学生を呼び、参加者が徐々に増加中! 学生の意見も活発に飛び交うARECでの交流会

ARECの取り組みは、若者や企業のネットワークを活用し、お互いの交流の場づくりへと拡大している。この運営に携わるのが、ARECの「特任研究員」に任命された9名の学生たちだ。彼らは企業と学生の交流会を企画したり、企業が気付きにくい「学生の本音」や「学生の関心」にフィーチャーした「学生のための就職セミナー」を開催したりと、さまざまなアイデアで運営をサポートする。さらに、人脈を駆使して、それぞれの企画に合った学生に参加を呼びかけるなど、クチコミを活用した学生ネットワークが徐々に拡大中だ。その甲斐もあり、定期的に行われているランチ交流会と並行して行われた座談会では、様々な意見が飛び交った。「企業の経営理念も知りたいが、一番関心があるのは仕事のやりがいなど、具体的な話。経営者の話だけではなく、社員の話も聞いてみたい」という前向きな意見も聞かれた。

このような声があがる一方で、中小企業の情報に対して消極的な姿勢が見られるのも事実。「自分のやりたいことがわからないまま就職活動をはじめれば、目に留まりやすい大手に意識はかたよる」「学生は興味のない企業の話は聞かない。だから、もしかしたらその話がきっかけになって人生が変わるかもしれない、ということに気付くきっかけが必要では」など、学生への働きかけや企業の情報発信方法を考え直すヒントが出てきた。そこで、当初企画していた企業と学生の交流会とは別に、学生の仕事に対する意識を高める「やりがい探し」のプログラムもスタート。会社の規模や地域にとらわれず、自分のやりたいことを実現できる企業に目を向けること、さらにはそれをきっかけに、上田の企業への関心を高めて欲しいという願いも、そこにはこめられている。

「学生が求めているのは企業への共感。経営者としての考え方をいかに企業の魅力として伝えていけるか、そこがポイントだろう」と、ランチ交流会に参加したラナベイク（株）新田氏

医療関係の洗浄・滅菌処理機器の製造のサクラ精機（株）にリラックスした雰囲気で訪問

参加企業Voice

学生が知りたい情報と企業が知らせたい情報のミスマッチ このような場を活用して、それを解消していきたい!

ラナベイク株式会社　代表取締役　**永濱 健** 氏

メンテナンス事業や介護システムの開発、環境商品を手がけるラナベイク（株）の永濱社長は、繊維学部感性工学科の学生が運営するTシャツのオンデマンドプリントショップ「オンデマンドリメイク」内で行われた座談会を「実に有意義な時間だった」と振り返る。当初は「上田には色がない。地域に魅力を感じないから、どうしても企業まで目が向かない」と語る学生に、驚きを隠せないでいたが、それが現実だと思い至る。「自分達が伝わっていると思っていたことは間違いだったのだと気付きました。これからは学生が知りたい情報と、企業が知らせたい情報のミスマッチを解消していきたい」と理解を示す。だが、永濱社長が事業への信念を語り始めると、学生の目の色が変わったのも事実。学生は「上田にも高い志を持つ、すばらしい企業があることを知った。今まで気付かなかったのが恥ずかしいくらい。大きな刺激になった」と感想を漏らす。経営者と直接語り合う機会が、確実に学生の意識を変えた。求人情報誌や掲示板だけでは伝わらない、言葉と思いの温もりをじかに伝えることのできる座談会。ARECの活動は、学生と企業の未来の幅を広げたようだ。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
財団法人　上田繊維科学振興会　上田市産学官連携支援施設（AREC）
〒386-8567　長野県上田市常田3-15-1
TEL.0268-21-4377　FAX.0268-23-6673　URL http://arecplaza.jp/

学生に響くのは、どんな魅力発信法か・・・

彦根商工会議所発！採用力強化の秘策とは!?

どこで、どのように求人情報を発信するべきか、悩んでいる中小企業の経営者は多いのではないだろうか。滋賀県彦根市にある、多くの企業も同じ悩みを抱えていた。

3つの四年制大学が市内にキャンパスを構え、約5,000人の学生が集う彦根市。琵琶湖のほとりに位置し、地の利を生かした運輸・物流業、国宝彦根城や琵琶湖を擁する観光産業、全国生産高の約4割を占めるパルプ産業、そして伝統的工芸品の仏壇産業と地場産業も充実。県内で唯一、独自通勤圏を形成している。このような好材料をそのままにしていてはもったいない。学生にもっと地場産業の魅力を伝えようと、彦根商工会議所の挑戦がスタートした。

「効く！」ポイント1

学生・企業・商工会議所が真剣勝負を繰り広げた地域密着の課題解決型インターンシップ

商工会議所がはじめに取り組んだのは、学生と企業の出会いの場づくりだ。そこで、社員研修や雇用政策支援を手がける（有）キャエリアファクトリー代表の木島洋嗣氏をコーディネーターにむかえ「地域密着の課題解決型インターンシップ」を実践した。参加企業は基幹産業を担う5社。小さな成功事例を確実に積み重ねて、大きな輪を広げていくのが狙いだ。

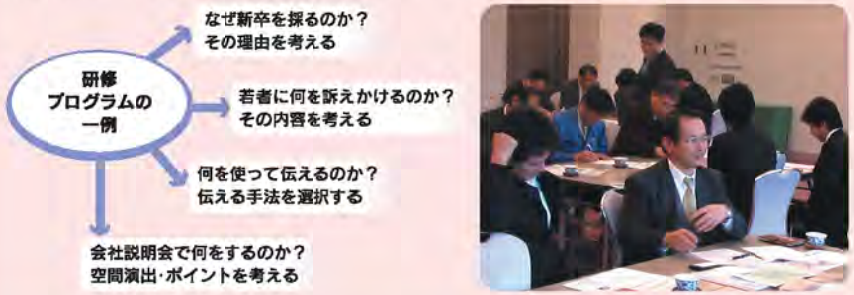
このインターンシップは、決められた課題の原因や解決策をインターンシップを通じて探っていくもので、企業研究に近い。現場の取り組みを見て回ったり、マーケティング調査を行ったりと、企業の外に出て活動する機会も多く、企業の取り組みを多角的に見てもらえるというメリットがある。しかし、意識が低いと何の成果も得られずに終わってしまう可能性も。「インターンシップに重要なのは、プロのノウハウだけではない。成功を左右するのは、そのノウハウを実際に地域で運用する人の熱意」というのが、多くの地域で失敗例を見てきた木島氏の実感だ。商工会議所の熱い思いは参加者に伝播し、学生を担当する社員の配置換えまでを行った企業も。その結果、その社員が大きな成長を遂げ、そこから会社全体の雰囲気まで変わってきたという副産物ももたらした。

「木島さんと企業、学生が話し合いながらインターンシップのテーマを設定しました」と、彦根商工会議所の柴田氏。マーケティング調査や個別のインタビューなど、それぞれの課題に応じて、学生が奮闘。その結果は最終日に経営陣の前でプレゼンされた。

「効く！」ポイント2

実践型ケーススタディで自社の問題点が浮き彫りに！若者に魅力を伝えるために企業がやるべきことを研修で指南

出会いの場づくりとの両輪で行われたのが企業の採用に関する問題を解決するための「採用力向上研修プログラム」。木島氏が講師を務めるワークショップスタイルで開催された。参加企業は13社・16名。新卒採用の手法や伝えるべき内容について、ケーススタディをもとに振り返る。参加者からは「具体例が多く大変ためになった。まずは、どんな人物が欲しいのか、どういったことをしてもらいたいのかを、会社内で議論することからはじめたい」という前向きな声が聞かれた。しかし、中には「優秀な人材を獲得できるためのヒントがたくさんあったが、後はそれを使いこなせるかどうか。そこが一番難しい」という本音も。ここに、中小企業ならではの不安が垣間見える。そこで、アイデアだけで留まらせず、実践を促すためのサポートとして、それぞれが抱える問題についてアドバイスを行う「個別相談」も行われた。



参加企業Voice

地域の企業が資金を出し合って事業を推進してもいいくらいそれだけ意義のある取り組みだ！

株式会社永樂屋　代表取締役社長　**宮川 孝昭** 氏

「日ごろから、地域の魅力を伝え、産業を活性化させるには、地元の企業が動かなければダメだという思いを持っていたんです。今回、その思いをより一層強くしました」。そう語るのは伝統産業『彦根仏壇』の製造・販売を手がける創業187年の老舗、（株）永樂屋の宮川社長。インターンシップと研修プログラムのふたつに参加している。インターンシップの受け入れに対しては、当初ネガティブなイメージもあったというが「「社長、とにかく私を信じて参加してくれ」という商工会議所の中川さんの熱意に動かされて・・・。そうしたら、負担はあまりない、社員のモチベーションも上がる、学生のプレゼンはよいので、そのイメージはガラリと変わりました。今は、学生に地域の産業を理解してもらうためには、このような事業が必要であると痛切に感じています。むしろ、地域の企業が資金を出し合って、積極的に取り組みを行っていくくらいでもいい。それ程、学生が提案してくれたことはよかった。学生からパワーと自信をもらいました」と、インターンシップの取り組みに対して、100点満点の評価をつける。「インターンシップは、学生だけではなく企業も能動的に取り組まなければ成功しない。経営陣が主体となって積極的に参加すれば、大きな成果と財産が得られるものと確信しました」。その言葉どおり、今回のインターンシップの成果は、参加学生を中心とした学生との交流が生まれたところに結実している。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
彦根商工会議所
〒522-0063　滋賀県彦根市中央町3-8
TEL.0749-22-4551　FAX.0749-26-2730　URL http://www.hikone-cci.or.jp/

パワーアップする人材支援策

理工リサーチオフィスのアミーバ大作戦、始動

優れた専門知識を持ちながら、雇用のミスマッチにより入社2、3年で退職してしまったり、専門知識を活かせない場所に就職を決めてしまう学生がいる。一方、滋賀県内では60%以上もの中小企業で、29歳以下の人材に不足を感じているのが現状だ。

お互いのニーズはマッチしている。そこで、理工リサーチオフィスでは、長年の産学連携で培った人脈とノウハウを活かし、学生・企業・教職員が有機的につながるためのシカケ作りをはじめている。名づけて「アミーバ大作戦」。インターネットや新聞・冊子などの媒体（メディア）を使ったよびかけをするのではなく、人と人の直接のコミュニケーションを通じて、それぞれの熱意に共鳴する繋がりを広げていく戦略だ。

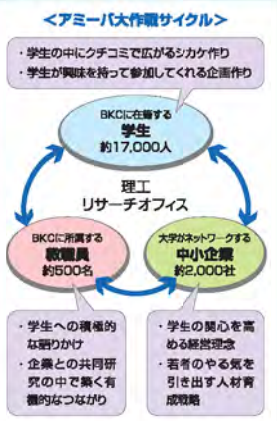
「効く！」ポイント1

学生・企業・教職員 心をつなげて太いネットワークを築く、アミーバ大作戦の全貌

立命館大学のびわこ・くさつキャンパス（BKC）にある理工リサーチオフィスでは、学生・企業・教職員が親密なコミュニケーションをとり、心と心で共鳴しあえる場を作ろうと、毎日100名の職員が奮闘している。

「学生の視点に立たなければ、関心を高めることはできない」そう語るネットワーク事業統括責任者・田中武司教授の言葉どおり、学生インターンシップを迎えチラシの作成を任せたり、学内の学生団体に足を運び、クチコミでの告知を図ったり。ゆくゆくは企画の段階から、学生の積極的な参加を促したい考えだ。

中小企業にもヒアリング調査を実施している。3月から9月にかけて、雇用に対して関心が高く、企業理念を強く打ち出している企業に参加を働きかけた。また、教職員も授業や研究を通じて中小企業の技術力を伝えたり、事業の報告をしたりと、人のコミュニケーションの中で有機的な繋がりを生み出す、三位一体の取り組みが行われている。



「効く！」ポイント2

人材戦略を説くスキルアップセミナーから出会いの場の創出まで アミーバ大作戦の7つの核

「いかにして良い人材を獲得するか」「最近の若者は何を考え、何を求めて就職活動をしているのか」。企業経営者にとっては大きな関心事であるこの疑問をテーマに掲げた「経営者のための優良人材発掘ワークショップ」が平成18年11月17日（木）、キャンパスプラザ京都で開催された。モデレーターに（社）日本能率協会の中島克紀氏を迎え、立命館大学の4名の学生やキャリアオフィスから学生の就職活動の現状について発表を行った。集まったのは22名の中小企業経営者や人事責任者の方々。企業側から中小企業のデメリットについての質問がでると、学生の佐藤良太さんからは「中小企業のデメリットを思い浮かべることができないほど、中小企業の情報が不足していることがデメリット」と、そもそも学生が中小企業に触れる機会がないことに対する厳しい指摘も。また、4人の中には一度就職してもそこでノウハウを吸収し、起業を考えている学生もおり、参加者の関西電子工業（株）小野雄司氏は「わが社でも人材発掘という面で課題があるが、定着率を高めるために、若い人材とコミュニケーションをとっていくことが重要だと思う」と語っていた。

もちろん、学生に対してもスキルアップセミナーは行われている。昨年も各界から著名人を招き、就職や働くということに対するモチベーションを高めるセミナーが開催され、評判をよんでいた。

活発に意見が交わされたワークショップ

これらのスキルアップセミナーと並行して行われているのが、マス対マスの大規模な「交流フェア」から、社長に密着しOne to Oneの出会いの場を創出する「社長のかばん持ち」までの多彩な取り組みだ。

「交流フェア」は平成18年12月14日（木）・15日（金）の2日間にわたって開催され、延べ約3,000人の学生が46の企業ブースをみて回り、参加企業の説明に熱心に耳を傾けていた。

参加者Voice

楽しければ、大企業も中小企業も関係ない！

（株）サワーコーポレーションの説明に熱心に耳を傾けていた2回生の女子学生からは「理系の勉強は難しくて、進路に不安を感じていたけれど、サワーさんの話を聞いてみると文系の方でも活躍していて、とても楽しそうで安心した。将来は大企業・中小企業に関係なく、楽しそうな会社で働きたいと思った」という感想が聞かれた。

また、出展した企業からも「このようなフェアで実際の商品に触れてもらえる機会は、会社に興味をもってもらえるきっかけになる」という歓迎の声があがっている。さらに現場では、ブース内の回遊性を高めようと、スタンプラリーを行うなどの工夫も見られた。スタッフの気配りが、企業と学生のコミュニケーションに直結したようだ。

楽しそうな雰囲気の会場が弾む交流フェア

出会いの場は他にも、20名ほどの若者がバスを借りきり企業を回る「企業訪問ツアー」や、研究課題に携わるポスドクと、中小企業との出会いの場を作る研究センターとの「共同セミナー」が行われている。

これらのセミナーやフェアに参加した学生が、今年も恒常的に参加するためのシカケ作りが今後の課題だ。7つの事業がさらに有機的に絡まりあえば、強力な人材支援になることは間違いないだろう。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
立命館大学　理工リサーチオフィス
〒525-0058　滋賀県草津市野路東1-1-1
TEL.077-561-2802　FAX.077-561-2811　URL http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/b-liaison/

学生時代にアジアビジネスのノウハウを習得

5年後、10年後の次代を担う“ポスト戦力社員”育成中

5年後、10年後に自社を担う若手人材を採れているか?という問いに対して、自信を持って答えられる中小企業経営者は多くないのではないだろうか。事実、九州で環黄海経済圏ビジネスに取り組んでいる企業の約3割が、人材不足の問題を感じている。とはいえ、社内で人材を育てている余裕がないというのも企業の本音。そこで、学生を中心とした34歳までの人材にスポットをあて、入社前にアジアビジネスの基礎を身につけるための取り組みがはじまった。即戦力とはいかないまでも、入社時にある程度のレベルで話ができるスキルや知識の習得を目指す。

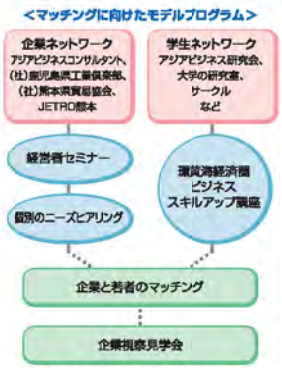
次代を担う人材の獲得。これからの国際ビジネスには、今後を見据えた人材戦略が不可欠だ。

「効く!」ポイント1

九州地域の若手人材戦略
学生と企業のマッチングにむけた地道な挑戦が続く

九州では半導体や自動車製造、バイオなどの環境関連産業から食品加工にいたるまで、実に様々な分野でおよそ500社の企業がアジアビジネスに進出している。しかし、日本全体で見てみると、その数は1割に満たない。原因のひとつは、国際ビジネスを担う人材の不足にあるとみるのは、(有)アジアビジネスコンサルタント(ABC)代表、古森政基氏。今回の事業を取りまとめる中心人物だ。

九州は「東京より中国・韓国に行く方が早い」といわれるほど、日本でもっともアジアに近い場所。アジアに関心をもつ学生のサークル活動なども盛んだ。学生のアジアビジネスに対する求職ニーズも高い。そこで、講座を受講しスキルを身につけた学生と、人材ニーズを感じている企業とのマッチングを図ろうと双方に向けて情報を発信している。講座を受講した学生は、実に前向き。5年後、10年後に企業を牽引する、彼らのエネルギッシュなパワーを、ぜひ感じて欲しい。



2006年度は、福岡、鹿児島、熊本の各県でそれぞれの講座を開催。今後は佐賀、長崎、大分、宮崎にネットワークを広げる。

「効く!」ポイント2

実践型のカリキュラム
アジアビジネスの基礎を学ぶ40時間

学生向けの「環黄海経済圏ビジネススキルアップ講座」は、6つのカリキュラムで構成されている。これを、全40時間かけて習得する、本格的なセミナーだ。福岡地区だけでも、全部で56名の若者が参加。放課後を使った1週間の集中講座、就職活動やアルバイトなどで多忙な学生も多い中、その本気度がうかがえる。

このプログラムは、「自社で社員を育成する余裕が少ない」ことで、新卒採用に踏み切れない企業の声を受けて作成されている。講師は全員アジアビジネス経験者。より実践型のカリキュラムが実現した。アジアビジネスで必要な語学や知識だけではなく、異なる文化や商習慣の違いを理解し、臨機応変に対応するために必要なネットワークや情報収集にいたるまで、実に多彩な事例も紹介。

来年は、業種や職種別に、より専門的な知識習得に向け、カリキュラムの細分化をはかり、学生への裾野を広げる予定だ。

- ステップ1 さまざまな事例から中国・韓国ビジネスの基礎
- ステップ2 環黄海経済圏の貿易・海外投資
- ステップ3 環黄海経済圏の知財・環境に関する技術力と課題
- ステップ4 ビジネスシーンで必要な言語と文化の理解
- ステップ5 心構え、ビジネスマナーなどのヒューマンスキル
- ステップ6 環黄海経済圏で必要なビジネスマネジメントスキル

さらに 『アジアビジネス研究会』発足。受講した学生を中心に、75名の会員が、アジアビジネスについての情報交換を図るネットワークを構築している。

参加者Voice

学校では学べない専門的な知識と生の事例。講座を終えて、今、すごくモチベーションが高いです!

福岡大学人文学部東アジア地域言語学科2回生　**井田 尚彰** さん

「学科の先輩に誘われて受講を決めた」という井田さんは、大学で中国語を学ぶ2回生。受講前から若干の知識があったというが「受講してみて、学校では学べない専門的な知識が身についた」と感想を語る。「もともと福岡の企業に就職したいという思いはあったが、九州地域で活躍する企業の事例を見て、中国でのビジネスは中小企業が強いと実感した。この講座受講をきっかけに、中国ビジネスへの関心がより高まった。今、すごくモチベーションが高いので、今後は講師の方々の企業に見学へ行くなど、交流を深めていけたら」と、意欲の強さをのぞかせた。

参加企業Voice

事前にスキルを学んできてくれるのは、企業にとって、心強い!

信号電材株式会社　管理部部長代理　**前田 祐之** 氏

交通信号関連機器を製造し、国内で高いシェアを誇る信号電材(株)は、台湾で合弁会社を設立、駐在員と技術者を現地に派遣する。「アジアビジネスに関る人材は必要だが、今は経験者の雇用が主流。人材育成は、多くの企業にとって課題としてあると思う。そこをこのような講座で学び、ある程度のスキルを身につけてきてくれたら、企業にとっては心強いのではないか」と、事業への期待を聞かせてくれた。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
有限会社　アジアビジネスコンサルタント
〒810-0001　福岡県福岡市中央区天神2-3-38 Ibb fukuoka 5階
TEL.092-725-3688　FAX.092-725-5431　URL http://www.abcjapan.com/

問題解決能力をアップ

現場のあらゆる問題を解決する心強いお助けマン誕生!

「知恵」「創造性」「発想力」が身につくPBL

「未知のものへの対応」に迫られる場面が続出する、それが実際の現場だ。そこで、今回のプログラムでは、「知恵のトレーニングの手法」として、話題のPBL（Problem（Project）-Based Learning:問題解決型学習）をグループ制で導入している。

このPBLの過程においては、自らのもつ知識を総動員させる必要がある。というのも、問題解決のポイントとなる「キーワード」を取捨選択しながら、トライ&エラー、そして確認・決断を繰り返さなければならないからだ。そして、この体験を通じて、参加した若者は、「誰も解いたことのない問題に取り組んでいる」というやりがいを実感できる。結果として、汎用性の高い「知恵」「創造性」「発想力」が身につくような「人間教育」がなされるという仕組みである。

（財）みやぎ産業振興機構では、参加企業にこのプログラムの内容を詳しく説明し、この「人間教育」の効果を企業内で高めていける取り組みも進めている。

「効く!」ポイント1

2つの高専が連携し、創造的で人間性豊かなエンジニアを育成!

今回のプログラムは宮城工業高等専門学校と仙台電波工業高等専門学校が連携して展開。主にニーズ調査は宮城高専が実施し、互いの高専の特徴・得意分野を生かしてカリキュラムを設置している。材料評価を担当している宮城高専、四ツ柳校長は、「その知識は優れているだけでなく、本当に必要とされているかどうか」という視点を活用。一方、情報通信に強く、組込みソフトを担当している仙台電波高専、宮城校長は、「創造的で人間性豊かなエンジニアになるための知識を身につけてほしい」と思いを語る。

右:宮城高専校長　四ツ柳 隆夫 氏
左:仙台電波高専校長　宮城 光信 氏

「効く!」ポイント2

少人数制で理解度UP!　e-Learningを活用することで個別への対応も

まず、若手技術者への現場技術教育に関する地域企業のニーズ調査を実施。調査結果のひとつとして、この地域では、人材確保には熱心だが、育成には無頓着な傾向が見られた。また、PBL教育への期待やマンツーマン教育の希望をキャッチ。結果、少人数制グループでのPBL教育が実現したのである。

また、e-Learningによって不定期に講師から課題を出題。即日解答での個別評価も行った。このe-Learning上でのコミュニティやチャットは、参加者の若手同士の交流や、新しいアイディアの発表の場にもなっている。

コーディネーター
宮城高専名誉教授・特命教授
庄司 彰 氏

ニーズに基づいた計画

参加企業Voice

製品・材料の分析技術のPBLが問題の即解決を実践する現場に役立つ

ヤマセ電気株式会社
専務取締役
小林 清助 氏

当社は電子機器の商品開発から製品までを一貫して手がけています。製品・材料の評価や分析技術に力を入れたいと考えていた矢先に、実践的な指導、充実した設備の活用など、大変ありがたい企画に喜んで派遣いたしました。事業が継続されれば産学官に一体感がもたらされるでしょう。

当社もコア技術を深めるべく「自己実現できる人材」「1人で動くことのできる技能者」の育成を目指しています。参加者本人に対しては、これを契機に、習得した技術とPBLの手法を生かした、高度技術者・開発者としてのより一層の活躍を期待しています。

都心の研修にも積極的に参加 地元の開発と性能検証の指導はありがたい

株式会社イマジックデザイン
代表取締役
進藤 圭二 氏

私も一級建築士の資格があり、当社は建築関連から紙以外の広告媒体、熱、換気の計算システムTRNSYS,COMISの販売とアプリケーション開発まで幅広く手がけています。

非常に有効な事業と感じ、理学博士をもつ島山と入社間もない佐々木の2名を参加させています。

データの正誤の判断等、長年の経験が問われる分野もありますが、常に人材育成の重要性は実感しています。そのため、当社では、初任者研修はもちろん、都心の大企業による研修等にも積極的に参加させているのです。

FPGA・新技術の必要性を実感して難しい組込システムのテーマを選択

凌和電子株式会社
代表取締役副社長
安藤 仁司 氏

「計測」と「制御」をメインテーマとしたFA（ファクトリーオートメーション）製品・システムをトータルエンジニアリングで提供している当社では、LCD（液晶表示ディスプレー）の動作に役立てるべくこの難しいテーマを選びました。本人のハード設計の経験は受講の際に生かすことができたのでは。FPGA（ユーザーが自由にプログラミングできるLSI）の必要性、新技術を学びつづけることの重要性を実感しています。仕事に支障なく学べるこういった機会は、地元の中小企業にとって大変有意義。産学連携やシーズを生むきっかけにもなっていくでしょう。

次年度に向けて

今年度以上に、アドバイスはもとより、学びの場やノウハウを提供したいという企業が名乗りを上げはじめている。また、PDCAサイクルの継続によって来年度はさらなる効果的な事業が期待できる。

また、今年度は事業の後半に導入したe-Learningを次年度以降については、内容についての検討を重ねたうえで、より大きく展開していく予定。

この事業に関する問合・お問い合わせ先
財団法人　みやぎ産業振興機構　産学連携推進部
〒980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉1-14-2　宮城県商工振興センター3階
TEL.022-225-6636　FAX.022-263-6923　URL http://www.joho-miyagi.or.jp/

総合力を身につけた幹部候補を育成

企業力を格段にアップさせる多彩なカリキュラム

都立高専の強力な教授陣と設備が数多くの中小企業を強力にバックアップ!

産学連携の集積を背景に、機械・電気・材料を網羅的に扱いながら幅広い展開をみせている大田区・品川区（城南地域）、荒川区（城東地域）。

（財）大田区産業振興協会は、若手エンジニア育成についてニーズ調査を行なった結果、これらの地域では、家族経営の小さな企業が多く次期経営者候補の若手が活躍しており、「ゆくゆくはチームのリーダーとして活躍してほしい」というように若手に対する期待も多く見られ、経営を担える総合力のある若手人材を求めていた。一方、機械加工業に携わる企業が多く、日常の業務等の目前の問題にとらわれやすいために視野が狭くなりやすいという傾向が見られた。そこで、「総合的な知識・技術・技能を身につけた人材の育成」を企図して、右ページのような他に類を見ない多彩なカリキュラムが用意された。実際、配属部署にとらわれず、営業や倉庫管理等の担当者にCAD/CAMなどの専門外の分野について学ばせるといった例も見られ、幅広い知識や技能を求めるニーズにしっかり対応する形になった。

都立高専には、最先端の設備が用意されており、「デジタル化への対応」も十分なので、参加した若手は、「技術開発最前線」をもぞんぶんに体感できた。

そこから、若手技術者同士の交流や、高専の設備や教授陣の活用、技術力向上、さらには地域の強みでもある新技術・新商品開発へと発展してほしいとの期待も高まっている。「理論は現場と共通のものであり、理論を学ぶことによってプラスαの仕事が可能になることを実感してほしい」と教授陣は語る。

高専は実践力・総合力のあるノウハウ型の人材育成を行う「町医者」

荒川キャンパス　**吉田 喜一** 先生

機械・金属の高精度加工に強い城南とは異なり、小さな町工場が多く、生活関連や伝統産業に強いのが、荒川・足立・墨田・葛飾・江戸川・台東の6区からなる城東地域（江東6区）。企業からの相談件数は年間数十件で、新製品開発や強度試験に関するものが多かったので、自社での問題解決に結びつくよう、講座を組みました。また、風力に関する風洞という特殊な設備の活用も。大学が大病院だとすれば、高専は町医者。実践的な技術教育と総合力のあるノウハウ型のエンジニア育成を指南する高専は、この事業に最適だと考えています。

※「全国商工新聞」にて全国高専の諸先生方による連載が2007年9月までつづいております。どうぞ、ご一読ください。

「効く!」ポイント

ニーズ調査の結果や総合的な人材育成という狙い
都立高専の設備の充実が合致した、多彩なカリキュラムを実施!

品川キャンパス＝CADと機械振動講座	
コース	講義実習の科目名
コンピュータ活用モノづくり技術	モノづくり基本技術
	自動化技術
	CAD/CAM（技術情報システム）
	管理機器システム
電気・電子技術	電気回路
	デジタル回路
	電子計測
	シーケンス制御
	パワーエレクトロニクス
	コンピュータ工学
品川・荒川キャンパス	
応用カリキュラム	コンピュータを活用した金型の設計と製作
	風力発電機の設計と製作

荒川キャンパス＝材料と機械振動講座	
コース	講義実習の科目名
材料加工・特性・強度試験	材料のマクロ組織とミクロ組織
	鋼の熱処理とS曲線
	合金の処理と状態図の見方
	溶融加工法
	基礎力学
	材料力学の基礎
	ひずみと加重（測定）
	引っ張り試験（法）
	はりの曲げ（試験）
振動と制振技術、流れの基礎現象解析	機械の振動問題
	振動の基礎理論
	振動分析（基礎・応用）
	振動の抑制
	流体力学の基礎（実験）
	流れの剥離と振動（分析）
ものづくりと生産技術	ものづくり基礎
	ものづくり特論
	現場での作業分析
	現場での品質管理と改善活動

●それぞれ講義・実習が行われ、この一覧では講義・実習名が異なるものも同表にまとめている。

参加企業Voice

将来を見据え 5名を参加させました

株式会社大成　代表取締役
大竹 昌徳 氏

当社は、昭和27年の創業以来、非鉄金属材料の加工販売を行っており、常に、お客さまの使いやすさを追求することで付加価値を高めています。業務のさらなる拡大と効率化を図り、この度、1億3千万円を投資して、都内最大級の大型マシニングセンターを導入しました。そのため、来夏までにCAD・CAMの設計・技術者が必要となってきたので、「コンピュータ活用モノづくり技術」コースに営業担当者含め将来的にリーダーとしての活躍を期待する5名を参加させたのです。

現場の人数は確保して送り込んでいるので一切負担はありませんし、頼ってもない機会。本人たちも、「とても勉強になった」「何がわからないかがわかった」と喜んでいますよ。また普段から朝比奈先生との交流は活発で、さまざまなことを相談しています。

創造力と意識の向上に期待し 幹部候補の若手3名を派遣

日進精機株式会社
取締役本社工場長・総務部長
平山 康積 氏

当社は、昭和32年の創業以来、金型の先駆者、経済復興を導いた京浜工業地帯の1社としての誇りを抱いています。あくなき精度の追求は人間の「手技」によるところが大きく、個人のセンスが問われます。そのため、創造力が培われるような人材育成に励んでおり、小学生の見学等も積極的に受け入れています。

今回、将来的に幹部候補として活躍してもらうことを期待していると日頃から少しずつ告げている3名を、通常から当社で使用しているCADを学ぶコースに参加させました。そのなかには、文系大卒でありながら、ものづくりへの高い志をもって金属加工業に挑む者もいるのです。

また、当社では、若い人材も積極的に海外の支社や工場の見学に行かせる等、競争意識を持たせたり、チャンスをつかもうとするような意欲を高めるための取り組みを行っています。すると、その部下の意識も高まるのです。

次年度に向けて

コンピュータ活用モノづくり技術コース担当　品川キャンパス　**朝比奈 圭一** 先生

来年度は、基礎講座を縮小し、応用に入ります。3月に集計したアンケートとは別に、終了時に再度アンケートを取ってまとめ、実際のニーズにより合致するよう、カリキュラム全体を整備します。この次年度の応用カリキュラムでは、ものづくりの論理や工程管理について取り上げる予定です。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
財団法人　大田区産業振興協会　企業支援グループ経営サポートチーム　高等事業担当
〒144-0035　東京都大田区南蒲田1-20-20　大田区産業プラザ内2階
TEL.03-3733-6144　FAX.03-3733-6496　URL http://www.pio.or.jp/

まじめな富山男が火を噴く!

アイツ、目の色が変わったぞ……そして彼は無敵のプロエンジニアに変身する

「謹厳実直」誰もが富山人をそう表現する。子どもや高専生を前に、彼らは「熱」を帯びはじめた。

富山の県民性をたずねると、誰もが「謹厳実直(きんげんじっちょく)」と口にする。今回のプログラムに際して改めてアンケートやヒアリングによってニーズを調査したところ、実はこの「謹厳実直」ならではの性格的なマイナス面をプラスに転じたいという声が多かった。それは、「コミュニケーション能力を高め、自分の意見を積極的に述べ、主体的に行動する力をもってほしい」というものである。

そこで「14歳の挑戦」という中学2年生による企業へのインターンシップ制度がある等、教育県としての風土がある富山では、一連の研修の中で「教授体験」を実施。小学生や高専生に対して汗をかきながら技術的なことを説明すると、小学生や高専生から驚くべき質問が飛び出す。それによりプレゼンテーション能力が向上し、業務についての再認識にもなる等、主体的な専門家意識の向上効果が大きいのだ。

また、研修の効果を確かなものとするために、創造性を発揮する様々な技法を習得する合宿研修も行った。すでに参加したいくつかの企業から「しばらくしたら、日常業務の中にも効果が現れはじめた」という声もある。

主催側の企画意図は「富山県内全体が変わる」。「若い技術者が積極的に動きはじめた」「富山県の産業界が変わった」という声をもたらすこと。そのためには、上司の意識も変える必要がある。現時点でも変化の一端は感じられ、周囲への影響がじわじわと表れている。

「効く!」ポイント

自分の関わっている技術を小学生や高専生に伝達する教授体験プログラム!

富山工業高等専門学校による独自の人材育成プログラム。実際の研修内容としては、まず、講義によって、科学技術コミュニケーションが企業の技術革新をもたらす可能性について学ぶところから開始。次に小学生や高専生などを相手に、自分の関わっている技術を対象に応じてわかりやすく説明する力をつける「教授体験」を行う。その後、合宿研修ではPBL(Problem(Project)-Based Learning:問題解決型学習)という学習法を通して、ものづくりによってチームで問題を解決していくプロセスを体験。さらに、EQ検査※も実施することで、具体的に教授体験やPBLを自ら振り返ることもできるような仕組みになっている。

※EQ(Emotional Intelligence Quotient:感情・情動指数)は心の知能指数と呼ばれ、この理論にもとづき、自分の感情(Emotion)をコントロールして人間関係を適切に処理する能力を測るのがEQ検査。

「富山県の産業活性化を担うフレッシュエンジニアのための研修プログラム」全体構想図

富山の技術者に求められる能力の向上をめざして

EQ 自分の状態を知る

講義
富山の産業と技術者に求められる科学技術コミュニケーション能力について
【学ぶべきポイント】
- 富山県の産業を支える人材育成とは
- 社会人基礎力とは
- 研修へのモチベーション強化

講習
科学技術コミュニケーションのためのプレゼンテーションスキルについて
【学ぶべきポイント】
- 科学技術コミュニケーションとは
- コミュニケーション力の基礎
- プレゼンテーションツールの操作法

教授体験
対象に応じたプレゼンテーションの実習
【学ぶべきポイント】
- プレゼンテーション能力
- 主体的専門家意識
- 応用力

合宿研修
(PBL)
ものづくりを最終目的にしてチームで問題解決のプロセスを体験
【学ぶべきポイント】
- チームワーク能力
- 知識や情報の統合化能力
- 問題解決能力・創造力
- 成功体験による自信
- 能動的自己学習力
- コミュニケーション能力

EQ 自分の成長を知る

参加企業Voice

社会の空気を全身で受けながら、「ガッツ」をもって仕事に取り組んでほしい

株式会社斉藤製作所　代表取締役社長　**斉藤 恵三** 氏

社会の空気を肌で感じることが大切なので、社員には都心のフォーラムや展示会にも足を運ばせています。また、若い方に現場を目にしてもらうことで未来に貢献できればと、積極的に見学を受け入れています。若い社員は自分を表現することがあまり上手ではないので、今回のセミナーや教授体験に若手を参加させたのです。

「自分たちの会社である」という自覚と意識の向上に期待

株式会社タイワ精機　代表取締役会長　**高井 芳樹** 氏

私たちは経営内容を公開し、株の3分の2を従業員にもたせることで、従業員に自分たちの会社であるという意識を促してきました。また、大企業の下請けをしないという「自主独立」も貫いてきたのです。教授体験やPBLに参加した若手の意識は向上しています。

基礎をかため、積極的に「自己発信」してほしい

コーセル株式会社　取締役会長　**飴 久晴** 氏

現在の高専・大卒は、20年前の工業高卒と同レベル以下なのではないかと危惧しています。基礎を学び、知恵や行動も伴わなければ、会社で役立つ人材にはなれません。富山人は粘り強く黙々と取り組みますが、「自己発信」が苦手で積極性に欠ける面も。高専からは現場力をつけるために、共同研究や技術指導をいただいています。これからの中小企業はコア・コンピタンスの向上が必要と思います。

「教え込む」「考え抜く」――高い目的意識によって自己実現を!

朝日印刷株式会社　代表取締役会長　**朝日 重剛** 氏

若手教育については「教える」ではなく「教え込む」「考える」ではなく「考え抜く」という習慣を身につけさせています。変革の時代にあって、仕事に対する目的意識をもち、自己実現へと結びつけてほしいと思っております。富山県民は、まさに「謹厳実直」。飾り気がありません。だから、この事業に参加させたのです。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
財団法人　北陸経済研究所
〒930-8507　富山県富山市丸の内1-8-10
TEL.076-433-1134　FAX.076-433-1164　URL http://www.hokukei.or.jp/

現場のニーズを徹底調査

次世代型エンジニア育成プロジェクト始動!

多忙な現場の助っ人登場!
普通高校・文系大卒者に高専がエンジニアの基礎を伝授。

大企業の多い兵庫県はもともと、産学の結びつきが薄かった。ただし、自立を試みる元気な中小企業は行政と連携してきた。そして2006年には、大学側のシーズと企業側のニーズをそれぞれ発表する「兵庫産学交流会(HIX)」、バイオテクノロジーの学識者が集まる「兵庫バイオテクノロジー研究会」、また、商業関連を含めた、さまざまな団体による講演会を夏の終わりに集め、ビッグイベントを催したのである。その頃をきっかけに、神戸地域のものづくり企業をつなぐ活動を手がける(社)兵庫工業会と、ものづくりに関わる人材育成に尽力する国立明石工業高等専門学校・神戸市立工業高等専門学校は、本格的に地元企業との産学連携について模索しはじめた。

(社)兵庫工業会では、企業のニーズをアンケートにて徹底調査。「普通高校や文系大学を卒業して活躍する若手に工業系の学問の基礎を伝えたい」というニーズをつかみ取り、今回の「若手技術者育成講座」につながった。

若手技術者育成講座

普通高校・文系大学卒エンジニア

工業系学問の基礎を習得するために参加

1. 機械製図 CAD基礎コース
2. シーケンス制御と論理設計コース
3. 材料力学の基礎コース
4. 電気・電子回路と計測コース

4コースをそれぞれ明石高専・神戸高専にて実施(計8コース)

「効く!」ポイント

ほとばしる汗に、その情熱がにじむユニーク講師。ていねいな講義で普通高校、文系大卒者をエンジニアへ!

国立明石高専　**石橋 進** 先生

文字どおり「汗をほとばしらせ」て熱心な指導を展開するのが、明石高専の石橋先生。ソフトの使用法の説明のみに陥りがちなところを、機械製図の書き方の基本や手書き図面(フランジ)の作成から丁寧に指導。「図面が描けるということは、読めるということにもつながってきます」「すべてが理解できなくても、これが重要なきっかけになっていくはずです」「互いに相談したり教えたりしながら自分のものにしていってください」と、繰り返す。参加者も手を挙げて積極的に質問。講義は本村先生と5年生の岡野さんもフォロー。お二人は、個人のレベルの違いといった問題を埋める重要な役割を担っている。

参加企業Voice

業務拡大・新製品開発に結びつく、次世代を担う人材育成に活用

株式会社きしろ　取締役企画管理部部長　**松本 好隆** 氏

大正4年個人創業、昭和20年設立という歴史を誇る株式会社きしろ。取引先は大企業が名を連ね、大型ディーゼルエンジンの主要部品の神戸製鋼製クランクシャフトについては世界シェアの4割を占めます。

機械加工がメインであるために、お客さまへの図面の説明、現場スタッフへの指示や説明において必要となってくるので、CADを勉強できるのはよい機会と考え、入社2年目のスタッフを参加させました。多忙のため、勉強時間を確保するのも難しく、通常、仕事をこなしながら、さまざまなことを身につけていくしかありません。そのなかで、次世代を担う人材を育てなければならないのです。

自社製品の開発にも、今後力を入れていく考えです。それらのためにも、人材育成は重要な課題なのです。

今後もテーマによっては、若手の参加を促したいと考えています。特に、アンテナとなって会社を主導し牽引する営業に関わるカリキュラムを希望しています。学んできたことを活かし、現場で信頼される貴重な人財となってくれればいいですね。

次年度に向けて

個々のニーズと優先度を徹底調査!さらなるマッチングを試みる

兵庫工業会や明石高専の諸先生、プロジェクトコーディネーター、参加企業、近畿経済産業局等の方々

終了後のヒアリング結果では、「現場中心のコース設定やレベルチェックを希望。『文系を専門職に』には強く共感」「実際的で、マンツーマンで理解できるまで指導。結果、本人の発想の範囲が広くなり、会社も本人も満足。今後も機械技術者に電気を継続して学ばせたい」「CAD仕事の付加価値を高める要請に人材面で応えるべく努力を傾注している当社に貢重。また、受講者個人にとっても設計への配置転換にあたりタイミングがよかった」などの声が得られた。

個々の中小企業と事業内容をX軸、事業内容に関連する技術内容をY軸、レベルをZ軸で構成する3次元マトリクス。これを整理して、空白部分を抽出し、実用教育研修の優先度の設定、実施方法などの検討・企画、作業の実施主体を設定して次年度以降を構成する。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
社団法人　兵庫工業会
〒650-0004　兵庫県神戸市中央区中山手通7-28-33　兵庫県立産業会館3階
TEL.078-361-5667　FAX.078-371-4336　URL http://www.hyogo-ia.or.jp/

企業がタッグを組んで世界をにらむ

「ステンレスの津山」強化プロジェクトが今、姿を現した!

将来性の高い地場産業「ステンレス」に照準を絞り今、津山がひとつになった!

よくある、企業誘致による産業振興ではなく、地域にある「リーディング産業に値する産業を見つけ、それを支援する」という活動を行う、つやま新産業開発推進機構。ここでは、つまり地域のポテンシャルを利用して特定の地場産業を育て上げることで意欲や能力を高め「地域のONLY ONE」を完成させようというわけである。

津山におけるリーディング産業の候補業種は複数存在したが「津山地域の特化度」「成長性の適合度」「移出産業適合度」「企業集積適合度」「平成4年と昭和63年を比較しての出荷額伸び率」といった基準から調査を行った結果「金属製品一般機械製造」を選定。特に、ステンレス加工企業は岡山県津山市に70社あまり存在し、この業種は職人の腕がなければ成立しないという特徴をもっていた。

早速、平成9年には産学官の連携によって「津山ステンレスネット」を組織。幅広い分野でのステンレス加工について設計から組み立てまで対応する共同受注グループが誕生し、その後、所属各社の売り上げや設備投資額が上昇している。

そして、このプログラムには、津山を「日本のステンレス加工基地」にと目指す地域の主要ステンレス加工企業25社の中から、将来の現場のリーダーとして期待を担う若者が参加。技能検定2級クラスの技術取得を目指し、「NCフライス盤技術」「NC旋盤技術」「板金加工技術」「溶接技術」について熱心に学んでいる。

高専等の活用による地域企業の若手技術者の現場教育

「効く!」ポイント

汎用機の使用からはじめる NCフライス盤・NC旋盤技術教育

今回のカリキュラムは、あえて現在あまり使われていない手動の汎用機の使用から講義・実習を開始。現在では、切削加工の技術はデータを入力するだけで行われるが、汎用機を使用すると手動でのさまざまな微調整が必要となるので、削り方等の基本や技術を改めて体感し、身につけることができる。

このようなカリキュラムは、他の地域での取り組みを見学したり、産学官で相談したりしながら作成したのである。参加者からは「時間が短かった。講義も実習ももっとゆっくりじっくり取り組みたい」「非常に現場に役に立った」という意欲的な声が多数上がった。

参加企業Voice

自社の技術を広く伝え 地域ステンレス加工業の付加価値をいっそう高めたい

池田精工株式会社　株式会社アイ・エス　代表取締役　**池田 晃** 氏

企業にとってメリットが高く、専門的なことは我々の仕事であると考え、このプログラムの検討委員会や機械加工カリキュラム編成委員会にも参加しています。バルジ加工・バーリング加工・溶接技術を駆使したサニタリー加工分野における当社のONLY ONEの技術を隠すのではなくこのプログラムのカリキュラムに提供することで、グループ全体の成長につながればと考えています。昭和61年に同業数社で「ステンレス加工団地」を結成し、平成7年には津山地域の産業活性のためのビジョンを掲げ、津山の「ステンレス加工基地化」に向けた調査を開始しました。その後の産学官連携によって、つやま新産業開発推進機構が生まれ、現在に至っています。20代前半、入社4年目の社員には、このプログラムでの指導役にもあたらせ、当社も非常に勉強になっています。今後、地域ステンレス加工業においてはさらなる高付加価値を求め、社員教育に関しては情熱と深い考えをもった幹部社員の養成に重点をおく計画です。

次年度に向けて

平成18年度は高専等を活用した標準レベルの講義・実習を行ったが、平成19年度には企業・専門家・メーカー等を活用した専門技術レベルの現場教育を行う計画。

この事業に関する質問・お問い合わせ先
つやま新産業開発推進機構
〒708-0022　岡山県津山市山下92-1　津山圏域雇用労働センター内
TEL.0868-24-0740　FAX.0868-24-0881　URL http://shinsan.tvt.ne.jp/